

C—9 公団アパート居住者層の持物に関する研究 ——春日ヶ丘団地における——（第2報）

大阪市立大 下河内信子

1. 本研究は、家具設計、住居計画の基礎的資料をうる目的で、公団アパート居住者層を対象に、一家の持物のすべてについて調査を行なった（ただし、台所器具類は、昨年度当学会で発表したもので省略）。うち、ふとん類の所有状態については、本年度、関西支部発表会において報告を行なったので、今回は、衣料の所有状態についてのべる。

2. 調査期日、昭和38年9月～11月、調査対象は前回と同様、大阪春日ヶ丘団地の2K～2DK住戸57戸の、家族別衣料について、各品目ごとに、所有枚数、使用枚数、適数について調査を行ない、それぞれの集中枚数をもとめて必要衣料数について検討を行なった。

3. i) 主人の衣料所有状態については、各住戸別変化は割合少なく、実用的な所有状態をしめす。ii) 主婦の衣料所有枚数は、主人の所有枚数より多く、各住戸により変化の少ないものと、変化の多いもの、即ち多分に趣味的な傾向のものがある。iii) 他文献に示された衣料所有標準枚数と、当団地の所有枚数を比較してみると、主人の所有枚数は、割合似かよった傾向をしめすが、主婦の所有枚数は、標準衣料枚数より多い傾向にあり、とくに和服の所有が多いことが判った。

注 1) 婦人の友編集部：「持ちもの とくらし方、下巻」(1963)

2) 文化服装学院編：被服文化 55 (1959) その他